

総合的な学習の時間

第1学年

神石高原町立三和中学校

指導者 佐野 元章
藤田 良平
向田あかり
橘高 光昭

単元名

町の未来に必要な仕事を提案しよう

本単元で育成する資質・能力

「主体性」「課題解決力(探究力)」「振り返り力(メタ認知力)」

1 日時 平成30年10月30日(火)

2 学年 第1学年A・B組(男子17名, 女子9名, 計27名)

3 単元観

本単元は、2年生の地域発見Ⅰ【夢の実現プロジェクトⅡ】につながる単元であり、仕事をより身近なものとしてとらえることがねらいである。国際社会は、様々な職業から成り立っており、それぞれの職業が密接に絡み合っ成り立っている。そのしくみを主体的に学ばせると同時に、神石高原町の仕事の現状を知り、町にとって将来どのような職業が必要とされるのかを考える。その際、神石高原町に50年前にあった仕事と新しくできた仕事を知り比較する。そして、町がどのように発展してきたのかを調べ、町の活性化には今後どのような仕事があればよいかについて疑問を見出すことから、課題設定を行わせる。この取組を通して、2年生の「職場体験学習」、3年生の「地域への提言」へと学習を発展させる基礎を固めることができると考えている。3年時には、チャレンジアワードに応募する力を付けさせたい。また、本単元を学習することは、国語科の「プレゼンテーションの技術」の項目や社会科の「世界からみた日本の姿」や「日本の諸地域」等の項目と関連し、教科横断的な学習をすることができる。さらに、地域の高齢者や保護者、行政に、情報収集や発表の場面に参画してもらい、新学習指導要領の柱の一つである社会に開かれた教育課程を進める。

4 生徒観

本学年生徒は、平成30年度6月に実施した地域に対する三和中学校生徒の意識調査において、「あなたは神石高原町にいずれ戻ってきたいですか」という項目や、「現在または将来、あなたは神石高原町のために何か貢献したい(役に立ちたい)と思いますか」という項目において、8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。

また、平成30年度7月に実施した三和中学校生徒質問紙調査においては、「総合的な学習の時間では、課題を解決するために、どのような方法だと課題を解決することができるかを考えて取り組んでいます」という項目や、「授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます」という項目において、8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。

これらのことから、本学年の生徒は地域に対する関心意欲が高く、総合的な学習の時間においても積極的に学習をし、自分たちの意見を伝えようという思いを持っていることが分かる。

しかし一方で、「学習の振り返りをするときには、『どこまで分かったか』、『学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由』を考えています」という項目においては、約7割の生徒しか肯定的な回答をしていないことから、総合的な学習の時間において自分たちを客観的に評価する方法やその手順については支援を行う必要があることが分かる。

5 指導観

(1) 主体的・対話的で深い学びに向けた指導の工夫

- ・外部講師を活用し、神石高原町に50年前にあった仕事についての情報を与えることにより、神石高原町に現在ある仕事と比較し、神石高原町の発展に必要な仕事について考える。
- ・課題解決のためにどのような情報を集めたらよいかを考えさせる。
- ・調査し考えまとめたことを、相互に発表、議論させるためにポスターセッションを用いる。
- ・3学期にある参観日を最終的な発表の場にし、そこに保護者だけでなく、地域の方にも招待状を書いて来てもらい、自分たちの発表を聴いてもらう場を設ける。

(2) 振り返り場面の指導の工夫

- ・本校で取り組んできた、総合的な学習の時間を進めていくうえでの4つのステップ（課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・創造・表現）を意識させ、これらの4つのステップのサイクルを作りながら、各々の段階で、自分の姿がどのようであったかを自己評価させる。
- ・振り返りの視点を示すとともに、自分たちのプレ発表の様子を撮影したビデオと上級生の発表の様子を撮影したビデオを比較することにより、どのような点に気を付ければより良い発表になるかを考えさせる。
- ・神石高原町主催の「神石高原町チャレンジアワード事業計画書」を、2年次で作成することを伝えることで、系統的な学習の見通しを立てる。

(3) 生徒の実態に合わせた指導の工夫

- ・国語科で学習したプレゼンテーションの技術や、外国語科で学んだジェスチャーの付け方や間の取り方を活用して、自分の意見を伝えることで、精度の高いアウトプットを行う。
- ・社会科で学習した世界情勢を基に、職業についての多角的なものを見方を育む態度を養う。
- ・学んだことを自己の生活に生かすことを意識させ、三和中ブランドの「地域のことを誇りを持って語れます。」、「課題解決に向けて学び合いをすることができます。」、「感謝の気持ちをやる気に変えることができます。」と言える生徒を育てる。

6 単元で育てたい資質・能力及び本単元の目標と評価規準

○ 本単元で身につけさせたい資質・能力と評価基準

資質・能力	評価基準		
	I	C	E
主体性	・神石高原町にある仕事に興味を持ち、50年前の仕事と現在の仕事を知らうとしている。	・技術の時間に学んだコンピューターリテラシーに配慮しながら、神石高原町にある仕事を理解するために必要な情報を集めようとしている。	・神石高原町に50年前にあった仕事と現在ある仕事を理解し、今後神石高原町がさらに活性化していくために、自分にはどのようなことができるのかを考えようとしている。
課題解決力 (探究力)	・50年前の仕事と現在の仕事を比較し、新たな疑問を見出すことができる。	・神石高原町まちづくり推進課の方から話を聞き、新たな課題を見つけ解決することができる。	・神石高原町の仕事で調査したことを、社会情勢と結びつけるなど多角的なものを見方を基に課題を解決することができる。

振り返り力 (メタ認知力)	・自分たちの発表の様子がどのようなかということが分かっている。	・発表の様子を比較することを通して、どのような要素が発表をより良いものにしたのかということを書けることができる。	・単元の学習の前後で、地域についてそれまで持っていた知識や、人にもものを伝えるための表現の方法が、どのように変化したのかを述べることができる。
------------------	---------------------------------	--	---

7 単元計画 (18 時間)

次	学習活動	生徒の思考の流れ	評価
			◇評価規準 (評価方法)
1 2	課題の設定 50年前の人口と現在の人口を比較することにより、町の課題を考え、学習活動に見通しを持つ。 情報収集 課題解決の情報収集の仕方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・50年前と今とで、こんなに人口に差があるんだ。 ・なぜ、こんなに人口に差があるのだろう。 ・仕事が少ないからじゃないかな。 ・50年前と現在の仕事も変わっているのかな。 ・本やインターネットや、人への聞き込みをしたらいいと思う。 	神石高原町の50年前と現在の人口の変化から、神石高原町の課題について考え、神石高原町にある仕事について興味を持つ。(行動観察)【主体性】
3	情報収集1 神石高原町に現在ある仕事について、資料やインターネットを活用したり、家族から聞き取りをしたりして情報収集を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に本で調べてみよう。 ・インターネットを使いながら情報を集めよう。 ・現在の神石高原町の仕事を分類してみると、こんなに種類があるのだな。 ・50年前にはどんな種類の仕事があったのだろう。 	技術の時間に学んだコンピューターリテラシーに配慮しながら、神石高原町に50年前あった仕事と現在ある仕事を理解するために必要な情報を集めようとしている。(行動観察・ワークシート)【主体性】
4 5	情報収集2 高齢者サロンへ行き、高齢者から話を聞き、情報収集を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・50年前と今とで、仕事がこんなに変わっているんだ。 ・なぜ50年前にあったこの仕事は無くなったのだろう。社会にはどんな変化があったのかな。 	講師の話聞き、50年前の神石高原町と今の神石高原町の仕事の違いより、社会情勢の違いや今後の神石高原町に興味を持ち、情報を収集することができる。(行動観察・ワークシート)【探究力】
6	整理分析 仕事について情報収集したことを業種ごとに分類する。	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜこの仕事が増えて、この仕事が無くなったのか。 ・今後神石高原町社会情勢はどのように変化していくのかな。 	
7 8	情報収集 分類した業種についてより詳しく知るために調査する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今後神石高原町には、どのような仕事が必要だろう。 	
9 11	整理分析 調べたことを発表し、新たな課題を見つけ、今後の計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各業種の「50年前の仕事と現在の仕事」、「50年前の神石高原町社会情勢と今の神石高原町社会情勢」の視点を基に、「調べている職種の未来」を創造していこう。 ・もう一度インターネットや本で調べてみよう。 	なぜ50年前と今とでは、仕事に違いがあるのかを社会情勢を踏まえて図や表を使ってまとめ、今後神石高原町が発展していくためにはどのような仕事が必要であるかを考えることができる。(行動観察・ワークシート)【探究力】
12	まとめ・表現 神石高原町まちづくり推進課の方へ向けて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことがより伝わるように工夫して発表しよう。 	発表の内容に説得力を持たせるような工夫がある。(行動観察・発表)【探究心】

13	情報収集 神石高原町まちづくり推進課の方から話を聞き、情報収集を行う。	・発表に対して疑問を持ちながら聞こう。	受け身にならず、発表に対して自分の考えと照らし合わせながら聞き、整理分析することができる。(行動観察) 【主体性】
14	整理分析 話を聞いたことを基に、発表に向けて整理分析する。	・話の内容を振り返り、それを反映させられるような整理分析をしよう。	
15 16	まとめ・創造 地域の方々へ向けて、多様な関連や本質的な共通点を見つけ、発表を作成する。	・4つの視点を伝えることを意識しながらプレ発表を行おう。 ・どうすれば相手にわかりやすく伝えることができるだろうか。 ・人前では堂々と、国語で勉強したスピーチの技法を使いながら発表しよう。	自分たちの思いを発信するためには、どのような発表をしたら良いかを考え、国語で学んだスピーチの技法を用いながら発表をすることができる。(行動観察) 【探究力】
17	まとめ・創造 参観日発表 3つのブースに分かれてグループごとに発表する。そして、保護者地域の方、行政の方から質問を受ける。	・改善点を意識しながら発表しよう。	発表の様子を比較することを通して、どのような要素が発表をより良いものにしたのかということ述べている。【振り返り力】
18	振り返り ・地域の職業調べの学習を通して、自分たちには普段の生活の中で社会に貢献するためにはどのようなことができそうかを考える。 ・3年生では「神石高原町チャレンジアワード」を完成させることを伝える。	・自分たちにできることは何だろうか。 ・学校生活の中で、規則を守ったり、期限を守ったりすることを身につけることは、社会に出たときに一人前に働くために必要なのではないかな。 ・将来立派に働くために今しっかり勉強することが、今の僕たちにできる社会貢献なのではないかな。 ・今回の学習を忘れずに2年生も頑張ろう。	なぜ今の仕事ができただのか、なぜ必要なのかを理解し、自らの生活の中で社会貢献をするために、自分にはどのようなことができるのかを考えようとしている。(生徒記述文章) 【主体性】 単元の学習の前後で、地域についてそれまで持っていた知識や、人にものを伝えるための表現の方法が、どのように変化したのかを述べている。(生徒記述文章) 【振り返り力】

8 本時の展開

(1) 本時の目標

神石高原町に必要な仕事を考え議論することを通して、根拠に基づいて、地域における未来の仕事を予測し、今後の学習計画を立てることができる。

(2) 準備物

ワークシート、拡大ワークシート、ホワイトボード、ペン

(3) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項	資質・能力 (評価方法)
○前時まで調べた地域における未来の仕事を、発表することを確認する。	◇本時の学習の流れを黒板に示す。	
○本時の目標と学習の流れを確認する。	◇黒板に掲示する。	

<p>1. 前時を振り返る 5分 2. 発表・議論 15分 3. 班で計画を立てる 20分 4. 発表 5分 5. 振り返り 5分</p>		
<p>本時の目標：神石高原町の「50年前の仕事」と「現在の仕事」の比較から、今後は町にはどんな仕事が必要かを考え議論し、今後の学習計画を立てることができる。</p>		
<p>○学習の流れを知り、見通しをもつ。</p>		
<p>○ポスターセッションで自分たちの班で考えたことを他の班へ向けて発表し、議論をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売, 飲食 ・宿泊, レジャー, 交通 ・教育 ・通信, 情報 ・農業, 林業 ・福祉, 医療 ・製造, 生産 ・金融 ・役所関係 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈例・思考の流れ〉</p> <p>・商業施設を増やすと町が栄えるという意見についてですが、土地が削られると農業や林業が衰退してしまうのでは？</p> </div>	<p>◇拡大ワークシートをホワイトボードに貼り、意見を発表する。 ◇3つのブースに3グループずつで交代しながら発表し、議論させる。 ◇議論について2つの視点を与える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>視点 ①実現可能か。 ②時代の流れを踏まえているか</p> </div> <p>◇各職種において、ちがう立場からの意見を持たせる。 ◆T2, T3が机間指導をする。 ◇他の班の意見をワークシートに青ペンでメモさせる。</p>	
<p>○他の班と議論して気づけた課題を解決するために、新たに必要な情報収集の計画を立てる。</p>	<p>◇メモした意見を参考に整理させ、必要な情報や不足していたと思われる情報をA3のホワイトボードに書き出させる。 ◆活発な議論ができていないグループには、T2, T3が参加し活性化させる。</p>	<p>なぜ50年前と今とでは、仕事に違いがあるのかを社会情勢を踏まえて、今後神石高原町が発展していくためにはどのようなことが必要であるかを考えることができる。(行動観察・ワークシート)【探究力】</p>
<p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・神石高原通貨のような、僕たちの調べている業種ならではの、神石高原町のためにできる新たな取り組みが必要だ。 ・金銭的なことを考えたら、新しいことばかりでなく、今あることやものを有効活用できないだろうか。 ・観光客や人口の増加ばかり考えていたが、今いる人やその人たちが今後も住み続けられる町にするにはどうしたら良いだろうか。 		
<p>○各班で決めた今後の計画を発表する。</p>	<p>◇発表者の支援と、視聴者の支援を分担して行う。 ◇他の班の発表を参考にするために、自分たちの班の意見と比較しながら聞かせる。</p>	

○本時の振り返り，次時の確認	◇他の班と議論して「なるほどと思ったこと」，「自分たちの意見の良かったところ改善したところ」について，共通点や関連性のあるものを記述させる。	
----------------	--	--

板書計画

本時の目標： 神石高原町の「50年前の仕事」と「現在の仕事」の比較から，今後は町にはどんな仕事が必要かを考え議論し，今後の計画を立てることができる。

1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班	9班

流れ	
① 前時を振り返る	5分
② 発表・議論	15分
③ 班で計画を立てる	20分
④ 発表	5分
⑤ 振り返り	5分